

CONTENTS

- 01 「病児・病後時保育」をはじめました
- 02 Care療養支援のおはなし
- 03 新任医師をご紹介します
- 04 連携病院・診療所紹介
- 05 オミクロン株対応ワクチンの接種開始
- 06 みよし市民病院を支えるチーム紹介
- 07 みよし市民病院職員募集(言語聴覚士)

# サツキ 晴れ

Satsuki  
bare



院長  
メッセージ

令和4年4月、小児科に待望の常勤医(吉田部長)を迎え、乳幼児から思春期にかけての健やかな成長を見守る体制が整いました。今のところ外来診療、乳幼児健診、予防接種を行い、皆さんから信頼される小児科をめざしています。今回の特集では、当院の小児科が地域で果たす役割に焦点をあててご紹介しました。どうぞご覧ください。



SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクト」  
**LINKED plus+**  
病院を  
知ろう

地域の小児医療を  
繋ぐ拠点病院として。

小児科特集

ご自由  
にお持ち  
ください

 **みよし市民病院**  
Miyoshi Municipal Hospital

INFORMATION

## みよし市民病院職員募集 言語聴覚士を 募集しています!

みよし市民病院では、私たちと一緒に  
地域医療に貢献してくれる仲間を募集しています。  
まずはお問い合わせください。

募集職種

言語聴覚士

資格 言語聴覚士の資格を保有または取得見込みの人  
年齢 昭和40年4月2日以降に生まれた人

お問い合わせ

みよし市民病院 管理課 TEL 0561-33-3300



看護師、看護助手、  
社会福祉士などの  
常勤職員も募集中!

詳しくはこちらをご覧ください。

<http://www.hospital-miyoshi.jp/recruit/>



みよし市民病院の理念 みよし市を愛し、みよし市民の健康に寄与することを誓います。

基本方針

- 1 患者さんの尊厳を重視し、公正な医療を行います。
- 2 思いやりと、心のふれあいを大切にした医療を行います。
- 3 常に医療の進歩に目を向け、質の向上に努めます。
- 4 市民の皆さんに信頼される医療を行います。
- 5 地域医療の向上を目指し、保健・福祉との連携を図ります。



サツキ  
晴れ

病院広報誌 特設サイト

地域の皆さんや連携機関の皆さんと  
「みよし市民病院」を情  
報で繋ぐ、広報誌連動型  
コミュニケーションサイト。  
ぜひご覧ください。 [こちらから](#)



LINE〈公式〉アカウント

病院広報誌「サツキ晴れ」のLINE  
〈公式〉アカウントを開  
設しました。QRコードか  
ら「友だち追加」をお願  
いいたします。



 **みよし市民病院**  
Miyoshi Municipal Hospital

〒470-0224 愛知県みよし市三好町八和田山15番地  
TEL 0561-33-3300  
<http://www.hospital-miyoshi.jp/>

サツキ  
晴れ  
Satsuki  
bare

発行責任者/院長 伊藤 治  
発行/みよし市民病院 広報グループ  
記事提供/中日新聞広告局  
編集協力/プロジェクトリンク事務局  
発行日/2022年11月



SPECIAL REPORT

# 地域の小児医療を 繋ぐ拠点病院として。

## 小児科特集

専門的な病院とクリニックの  
中間だからこそできることがある。



### CHAPTER 01 緊急CT検査で 腫瘍を見つけ出す。

猛暑のつくある夏の日、みよし市民病院の小児科に一本の電話がかかってきた。「3歳の男の子なんです、頭に瘤（こぶ）のようなものができてから、食欲がなくなってます」。母親からの電話に、最初は看護師が受け答えしていたが、小児科部長の吉田智也は直接状況を聞いた方がいいと考え、電話を代わった。話の内容から、頭にできた瘤の状態がどうしても気になる。母親は都合のつく数日後に受診したいと申し出たが、「できれば明日、来れますか」と提案。翌日、元気がなくなった子どもをひと通り診察し、CT検査の指示を出した。本来なら、MRI検査が最も適しているが、小さな子どもの体の負担に配慮し、ほんの数分間で撮影できるCTによる緊急検査を選択したのだ。診療放射線技師から届いた頭部の断層写真を見て、吉田は予想していた通り、瘤の形状や大きさから、腫瘍の疑いがあると診断。すぐに小児腫瘍の治療に精通した専門病院に依頼し、翌日の受診を手配した。このケースを振り返り、「タイミングを逸することなく、適切な病院へご紹介できました。専門的な病院とクリニックの中間にある病院として、精密な画像診断を行い必要な治療に繋げるといふ、当院の役割をしっかりと発揮できたと思います」と吉田は話す。

### CHAPTER 02 中間的な病院として 地域の小児医療に貢献。

地域の小児医療は大きく分けると、風邪や腹痛といったふだんの健康管理を担うクリニックと、24時間体制で小児救急と高度な小児医療を提供する専門的な病院で構成されている。みよし市民病院は、クリニックと専門的な病院のちょうど中間にある。クリニックでも大病院でもない、中間的な病院だからこそできるのはどんなことだろうか。「たとえばCTやMRIといった画像検査は、クリニックではなかなか難しいですし、大きな病院だと予約待ちになります。当院くらい規模ですと、診療放射線技師や看護師との連携も取れて小回りがきくので、緊急検査もスムーズに行えます。そのメリットを活かし、今後はクリニックからの画像診断の依頼も積極的に受けていきたい」と吉田は話す。

画像診断に続いて、吉田が構想するのは、〈高度医療機関に入院するほどではない

吉田は令和4年4月、同院に赴任したばかり。名古屋大学医学部を卒業後、名古屋市立大学病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院、聖霊病院などで豊富な臨床経験を積んできた。「新生児集中治療室（NICU）に入院する新生児から幼児、児童、中学生くらいまで、幅広い年齢のお子さんのさまざまな疾患を診てきました。その経験を活かし、お子さんの全身を診て、些細な病気も見逃すことなく拾い上げるよう努めています。クリニックの先生方とも連携しながら、地域の小児医療の入り口というだけでなく、必要な医療へ橋渡しするゲートオブナーの役割（※）を果たしたいと考えています」（吉田）

※ゲートオブナーの役割：患者の状態や価値観などを踏まえて、適切な医療を円滑に受けられるようサポートする役割。

●小児の画像診断では、成人とは異なる繊細な配慮が必要となる。CTやMRIの検査中、小さな子どもはどっしりも静止するのが難しいからだ。●そのため子どもに対しては鎮静剤を投与し、眠ったような状態で撮影し、撮影後もしばらく休んでもらい、鎮静効果から回復していることを確認してから帰っていただく。このほか、放射線被ばくへの配慮も含め、小児の画像検査では、安全な施行に対する慎重な準備が求められる。

けれど、自宅で見るとは不安という症状の子どもを短期入院で預かることだ。「専門性の高い病院は重症なお子さんで埋まりますから、中等症や軽症のお子さんまでは対応できません。ただ、それほど重篤でなくとも、本人や保護者にとつてかなりつらい病気もあります。そういうケースの受け皿として、役立っていきたく考えています。今のところ常勤医は私一人なので、体制上の制限はありますが、小学校高学年以上のお子さんの、たとえば肺炎などに関して、積極的に対応していきたいですね。それに、高度医療機関で急性期治療を終えた後のフォロー診療でもお役に立てると思います」（吉田）。専門的な病院とクリニックの中間にある拠点病院だからこそ、発揮できる医療機能はいろいろある。「当院は新しいことにチャレンジできる、ほど良い規模と環境が整っています。小児のさまざまな病気に寄り添う中間的な病院というロールモデルを、ここみよし市で作っていききたいと思っています」と吉田は意欲を燃やしている。

### BACK STAGE

#### 小児科に求められる 総合内科医の力量。

●大人の内科は循環器、消化器、呼吸器などに細分化され、それぞれの専門医が診療を担当する。それに比べて、小児科は子どもの全身を総合的に診療する広い視野と知識が要求される。

●さらに診療だけでなく、家族の不安解消、乳幼児健診や予防接種などの健康管理など、求められる守備範囲も幅広い。みよし市民病院の小児科はそうしたニーズにオールラウンドに対応し、〈子どもの総合内科〉として発展をめざしている。







# 令和4年10月から 「病児・病後児保育」を 始めました。

いざという時、  
安心



子どもが病気になったけど、どうしても仕事を休めない。  
そんな保護者の皆さまをサポートします。

## みよし市の子育て支援 「みよし市病児保育事業」に 協力しています。

保育所や小学校の放課後児童クラブを利用することで、仕事を続けている保護者の方はたくさんいらっしゃると思います。そんな方々にとって最大の困りごとは、お子さんの急な病気ではないでしょうか。発熱や腹痛などで保育所や学校を利用できないと、たちまち仕事を休まなければならなくなります。

そうした方々を支援するのが、令和4年10月からスタートした「みよし市病児保育事業」。当院が全面的に協力し、病気やけがの回復期にあるお子さん(病後児)や回復期に至らないお子さん(病児)を、院内保育所「Qの家(病児・病後児保育所)」で一時的にお預かりすることになりました。

## 利用する前日までに予約、 かかりつけ医の受診が 必要になります。

病児・病後児保育は、みよし市在住で、利用当日に保護者が就労などにより自宅で安静・療養ができない事情にあるお子さん(生後8カ月から小学6年生まで)が対象になります。利用を希望する場合、まずは市民病院小児科に電話し、空き状況を確認してから、かかりつけ医を

受診して「病児保育連絡票」を記入してもらいます。その書類をはじめとした必要書類を、利用希望日前日の午後3時までに市民病院小児科へ提出します。

当日は院内の小児科を受診後、院内保育所「Qの家(病児・病後児保育所)」へ。保育士、看護師が病状の変化などに注意しながらお預かりします。なお、感染力の強い疾患など、病状によりお預かりできない場合がありますので、小児科へご相談ください。

※詳しくは、みよし市ホームページ「病児保育の実施について」をご覧ください。  
<https://www.city.aichi-miyoshi.lg.jp/kosodate/byouji/byouji.html>



## Message

### 病気のお子さんの不安な気持ちに寄り添います。



みよし市民病院 院内保育所  
「Qの家(病児・病後児保育所)」

院内保育所「Qの家(病児・病後児保育所)」は、もともと病院職員の健康なお子さんを対象とした施設です。そのため、今回のように、広く一般の方を対象に、しかも病気のお子さんを受け入れるのは初めての経験になります。令和4年10月の事業開始に向けて、スタッフ一同、嘔吐や下痢にどう対応するかなど準備を重ねてきました。

お子さんにとってここは初めての場所で

すし、病気でつらいこともあり、とても心細いと思います。泣いてしまう方もきっといるでしょう。そんな不安な気持ちに寄り添い、小児科の先生とも連携しながら、しっかり見守っていききたいと思います。「子どもが病気だけど仕事を休めない」「病気の子どもを預かってくれる人がいない」など、仕事と子育ての両立でお困りになったら、ぜひ安心してご利用ください。(所長 加藤美の里)



骨粗しょう症予防① 1日3回、規則正しく、バランスのとれた食事を取りましょう。

# Care 療養支援 のおはなし

ケア

今回のテーマ

## 地域包括支援センター

高齢者の総合相談窓口として、  
介護保険や公的サービスなど、  
さまざまな支援に繋がります。

病気を治すだけ  
じゃありません。



## 福祉、医療、介護など、 総合的な視点で支援を実施。

みよし市には、高齢者やそのご家族を、福祉、医療、介護などの面から総合的に支援する地域包括支援センターが、市内に4カ所あります。そのなかの一つ「みなよし地域包括支援センター」は、みよし市民病院内にあり、病院に勤務していた経験豊富な看護師が、開設時より所長を務めています。

当センターは、ひとことで言うと、高齢者の総合相談窓口です。例えば、介護相談の受け付け、介護サービスの申請代行、他のサービスのご提案など。介護保険外のご相談は、みよし市役所長寿介護課と連携し、該当する機関への連絡などを担っています。

## 地域の方々とも手を繋ぎ、 認知症の不安にも対応します。

実際のご相談には、「入院する前の生活に戻れるだろうか?」「認知症が心配」といったお声が多々あります。そうした場合は介護保険の範疇か、市のサービスかを考えるとともに、その方が住む地域の民生委員や近所の方、友人などを集め情報共有や協力できることを話し合い、地域全体でその方を支えていくことを目的とした会議「ささえ愛会議」を開催するなど、安心して生活できるよう

さまざまな方法を考えていきます。

特に認知症に対しては、みよし市には、認知症初期集中支援チームがあります。これは認知機能の低下が気になる人、その家族、あるいは、地域の人からのご相談に対して、必要に応じて専門職で編成するチームが、家庭訪問を行うなど支援を行うもの。本チームにしっかりと繋ぎ、予防も含め、必要なサービスや制度を適切に活用できるようサポートします。認知症が少しでも気になったら、当センターにご相談ください。



## Message

### 人生の最終段階を見つめた取り組みも進めています。



みよし市福祉部 長寿介護課  
みなよし地域包括支援センター  
所長 近藤理恵(看護師)

当センターは、病院内にあることを強みに、対象となる方の病状などを正確に理解した上で、ご相談に乗ります。

とはいえ、当センターは市役所長寿介護課のセクションの一つ。市役所管理の個人情報と、病院からの情報を混同させず、慎重を期しての対応を行っています。

そうしたなかで、みよし市でも、みよし市民病院でも力を注いでいるのが、「人生

会議(ACP=アドバンス・ケア・プランニング)」の普及です。これは、人生の最終段階に、自分がどのような医療やケアを望むかを、前もって考え、家族や信頼できる人々と話し合う取り組みです。

目的は、ご本人が望む形で最期を迎えられるようにすること。最後まで自分らしく生きるために、皆さんもぜひ考えていただけたらと思います。



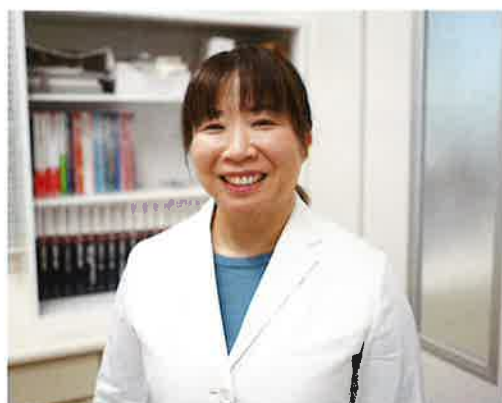
骨粗しょう症予防② 手軽で取りやすい乳製品を活用してカルシウムを上手に摂取しましょう。





# 新任医師をご紹介します!

赤尾医師に  
インタビュー!



あ か お ま ち こ  
整形外科 赤尾 真知子  
(リハビリテーション科 部長)

専門は膝関節とスポーツ疾患の内視鏡下手術。  
回復への階段を患者さんと一緒に上ります。

令和4年10月、整形外科に赴任した赤尾真知子と申します。私は整形外科領域のなかでも、膝関節とスポーツ疾患を専門とし、特に若い世代のけがやスポーツによる外傷を、得意分野としています。というのは、私自身、ずっと運動が好きで、将来はスポーツに携わる仕事がしたいと思っていました。また、運動仲間の多くが、手術を必要とするけがをするのを目の当たりにし、医療に関わるところに携わりたい、できれば整形外科医!という思いがあったからです。

当院へは、私自身の希望で赴任しました。私は関節鏡という内視鏡手術を多く手がけますが、手術は患者さんにとってゴールではありません。術後管理やリハビリなどを重ね、希望どおりの生活を手に入れる。その階段を患者さんと一緒に上っていくことが、医師として大事なことであり、当院ならそれができると考えたからです。皆さんの整形外科領域のかかりつけ医として、全力で務めていきます。



## Profile

平成14年、愛知医科大学医学部卒業。同学で2年間の初期臨床研修を受けた後、山崎外科整形外科、メイトウホスピタル、愛知医科大学病院で経験を積み、令和4年10月より現職。

## 資格・所属学会

日本整形外科学会 専門医、日本整形外科学会 認定運動器リハビリテーション医、日本整形外科学会 認定リウマチ医

## Our Partner

## 連携病院・診療所紹介

### なかじま内科皮フ科



患者さまが、体調だけでなく  
心も元気になるような医療を提供できるよう  
スタッフ一同、最善を尽くします。

なかじま内科皮フ科は、平成24年9月にみよし市打越町に開院しました。内科は、日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器内視鏡学会専門医である院長が担当させていただき、皮膚に関するトラブルは副院長(女性医師)が専任で担当いたします。

また、内科と皮膚科の待合室と診察室は別々になっており、さらに空気清浄システムも完備しておりますので安心してご利用ください。

これまで培った知識や経験を活かし、近隣の総合病院とも連携を取りながら、地域の皆さまに親しまれ信頼される医療を提供してまいります。内科、消化器内科、皮膚科の病気や症状でお困りのことがあればご相談ください。



なかじま内科皮フ科 外観

## なかじま内科皮フ科

〒470-0213 みよし市打越町島ノ山92-1

TEL 0561-32-9800

URL <http://www.nakajima-naikahifuka.com/>



骨粗しょう症予防③ 毎日の生活で適度な運動。高齢の方はウォーキングなど安全にできる運動がおすすめ。

## TOPICS

新型  
コロナワクチン  
のお知らせ!



オミクロン株に対応した2価ワクチンの接種を開始しました。

みよし市民病院では、オミクロン株に対応した2価ワクチンの追加接種を実施しています。  
2価ワクチンの疑問について、村瀬副院長がお答えします。

Q オミクロン株対応の2価ワクチンって、どんなワクチンですか。

A 従来株の成分に加え、オミクロン株の成分が含まれており、より多様な新型コロナウイルスに対応したワクチンです。従来型ワクチンを上回る重症化予防効果と感染予防、発症予防効果が期待されています。



Q 2価ワクチンの対象者は?

A 初回接種(1・2回目接種)を完了した12歳以上で、追加接種(3・4・5回目)を希望する方が対象です。接種回数は、1人1回です。

Q インフルエンザワクチンと同時に接種できますか?

A はい、同時接種が可能です。但し、インフルエンザ以外のワクチンは、2週間以上間隔をあけて接種する必要があるのでご注意ください。

初回接種が  
まだの人は年内に  
完了するように  
しましょう。

副院長  
村瀬吉郎  
(循環器科)



## みよし市民病院を支える

## チーム紹介

vol.10

## 薬剤課

薬のプロとして、院内からも地域からも、  
頼られ必要とされる存在をめざしています。

薬剤課の仕事には、外来・入院の調剤、注射調剤、医薬品情報の収集、製剤、薬品管理、服薬指導などがあります。いずれの面でも、使用期限や数量などの薬剤管理、飲み合わせや重複や相互作用の確認、持参薬と処方薬の管理など、ケースによっては医師への処方提案、また、一人だけの目ではなく、二重チェックを行うなど、医療安全の観点から慎重、且つ、厳しい姿勢で業務を遂行しています。

私たちがめざすのは、薬のプロとして、患者さんはもちろん、院内の医療スタッフ、さらには、地域の医療機関、調剤薬局



からも頼られ必要とされる薬剤師であることです。そのために、病棟のミーティングに参加し、患者さんの病状理解、また、当院と市内調剤薬局との連絡協議会の実施、市内の医療関連施設間の薬剤師連携の仕組みづくり、および、文書様式の統一などに尽力。「患者さんのため、市民のため」という、当院の基本方針を守り抜いています。

現在のスタッフは、7名(常勤薬剤師のみ)。専門知識の向上、患者さんへの接遇の向上に、スタッフ一同、日々努力を重ねています。



骨粗しょう症予防④ 定期的な骨量(骨密度)検査で、自分の骨の元気を把握しましょう。